

各地域の定住帰国者に対する日本語教室情報提供の試み

馬場 尚子

1. はじめに
2. 日本語教室情報提供への経緯
3. 情報提供の対象者
4. 情報提供の方法と手順
5. 結果
 - 5 - 1 第1回情報提供の結果
 - 5 - 2 情報再提供と結果
 - 5 - 3 返信のなかった情報提供対象者への電話調査と結果
6. 今後の課題

1. はじめに

中国帰国者（以下、帰国者）のうち国費帰国した人に対する援護施策の一つである帰国後1年間の日本語学習期間は、定着地等の事情からすべての帰国者に保障されているわけではない。自費帰国した呼び寄せ家族の場合は尚更である。また、帰国者にとって第2言語としての日本語力獲得という長期的なスパンで捉えられなければならない日本語学習は、1年間という時間で解決されるものでもないだろう。となれば、どこにすんでいても得られる長期的な日本語学習支援の充実がこれからの課題である。このことは、帰国者をはじめ日本語を第2言語として学ぶ外国人定住者に対しても言えることだ。一方で、昨今の日本語ボランティア熱を反映してか、日本全国各地域でボランティアによる日本語教室が開設されている。帰国者の定住地域での継続的な日本語学習を考えると、日本語学習の機会の得られていない者や、社会的に孤立化しがちな帰国者に対して、このような教室の利用を勧めていくというのも日本語学習支援の一方法ではないかと考える。ただ、各地域に定住している帰国者はこのような教室についての情報を得ていない場合もあると思われる。そこで中国帰国者定着促進センター（以下、センター）の修了生、及びその呼び寄せ家族に対して長期的な日本語学習支援を行うための試みの一つとして、各地にある日本語教室（主にボランティアによる）に

ついでに情報を提供し、学習機会を得るための一助としたいと考えた。本稿は、この「日本語教室情報提供の試み」の実施報告である。

2. 日本語教室情報提供への経緯

定住帰国者の日本語教室情報ニーズ

1996年に、センター修了生、及びその呼び寄せ家族に実施した学習ニーズ調査（（安場他、1997）（安場他、1998）において、「日本語を学習していない理由」として、自分の条件にあった日本語学習の場が得られないという回答が多く寄せられた〔表1〕

〔表1〕「日本語を学習していない理由」

（回答者：修了生416名、呼び寄せ78名、複数回答）

日本語を学習していない理由	修了生	呼び寄せ
・ 付近に学習できる日本語学校、教室がない	60 (14.4 %)	13 (24.1 %)
・ 学校、教室はあるが時間帯が合わない	54 (13 %)	16 (29.6 %)
・ どこで学習できるか情報が入手できない	36 (8.7 %)	1 (1.9 %)
・ 学費や教材費が高い	21 (5.0 %)	5 (9.3 %)
・ 学校・教室はあるが、学習レベルや内容 方法が合わない	19 (4.6 %)	10 (18.5 %)

「日本語を学習していない」具体的な理由としては、〔表1〕にあるように、周囲に適当な教室がない、教室の情報が手に入らない、また、アクセスした教室の条件が自分にあっていないというものであった。この傾向は修了生よりも2、3世の呼び寄せ家族に顕著であった。また、「情報の入手が困難な領域の滞日年数別件数」（1997、安場他）では、「日本語学習」についての情報入手が困難であるとする者が修了生で全17領域中4位で、滞日年数2 - 4年のグループにおいては第1位であった。呼び寄せ家族では、滞日年数7年までの人たちの中でやはり「日本語学習」は1位、2位の領域であった。また、希望の学習形態として最も多かったものは「教室での一斉授業」で修了生99件（23.8%）、呼び寄せ家族23件（29.5%）でそれぞれ学習形態の第一希望であった。以上の結果から、定住帰

国者の中には日本語教室の情報についてのニーズがあることがわかった。

学習適性のあまり高くない帰国者に対する地域の日本語教室の意義

センターでは各地域の定住帰国者に対する長期的な日本語学習支援の試みとして、1997 年度より、様々な事情で「日本語学習の場」を得られていないセンター修了生に対して通信教育の試行を行っている。その試行の手始めとして支援対象のタイプ化（年代、学習適性等から）を行い、それぞれのタイプへの通信教育を実施し始めた。そして、その中のケースの一つとして、青年層で学習適性もそれほど高くない対象者に対する通信教育を試行することになった。しかし、通信という方法を通して自学自習支援の模索を続ける中で、このような学習者タイプには自習で語彙や表現を蓄積していくという学習方法より、人との関わりの中でコミュニケーションを通じて学んでいく日本語の意義や効果が大きいのではないかと考えられた。そこで、支援対象者の地域コミュニティにおいて、日本人との接触場面を広げ、日本語学習の機会を作っていくことをサポートできないかと考えた。そして、センターからできるサポートとして、その対象者の周辺にある日本語教室の紹介とその利用への援助を行ってみることにした。その結果、その対象者の教室への参加が実現した。ただ、この対象者は自宅から 10 分程度のところに教室があることも知らなかった。このように、全国にも学習適性的にはあまり高くない青年帰国者で、日本語学習に対するニーズがあるにもかかわらず、身近にある教室情報を得られていない者もいるのではないかと考えられた。

以上、の経緯により各地に定住する中国帰国者（呼び寄せ家族も含む）への日本語教室情報提供の試みを行うこととした。

3. 情報提供の対象者

情報提供の対象者の選択は、先の学習ニーズ調査回答者の回答結果から選ぶこととした。条件は、修了生の中で日本語会話、読み書きに困難を感じる者で、情報提供側の時間的制限からある程度人数を絞らざる終えない事情から、ライフステージ的に日本語力の必要を自他ともに求められるであろう青年層に的を絞ることとした。但し、呼び寄せ家族については、回答者全員が 2 世、3 世という若い世代であるということと、来日以来、日本語学習の機会に恵まれなかったケースが多いことから、年齢的制限は設けずに「日本語に困難を感じる」と答えた者全

員をその対象とした。

a. 対象選択の条件

○修了生

- ・読み書きに対する困難度 4（少し困っている）5（非常に困っている）の者
- ・会話に対する困難度 4、5 の者
- ・以上二つの条件のどちらかを満たす者で、20 歳以上 30 歳以下の者
- 呼び寄せ家族（以下のどちらかの条件を満たす者）
- ・読み書きに対する困難度 4、5 の者
- ・会話に対する困難度 4、5 の者

b. 対象人数	修了生	43 件（41 世帯）
	呼び寄せ家族	58 件（39 世帯）

計 101 件（80 世帯）

情報提供対象者の居住地域と滞日年数

[表 2] 情報提供対象者の居住地域の分布

県	修了生	呼寄	計
北海道	4	8	12
岩手		2	2
山形	2	2	4
新潟	2	2	4
富山	1		1
長野	3	5	8
群馬	2		2
山梨	1		1
東京	9	20	29
神奈川	6	8	14
埼玉	2		2
千葉	4	3	7
静岡	1	2	3

愛知	1		1
大阪	1	1	2
京都		4	4
高知		1	1
福岡	4		4
計	43	57	101

[表 3] 滞日年数別 (97.10 現在)

滞日年数	修了生	呼寄	計
0 - 2	-	7	7
2 - 4	16	28	44
4 - 6	8	21	29
6 - 8	7	0	7
8 - 10	7	1	8
10 ~	5	0	5
不明		1	1
計	43	58	101

対象者の居住地域は全国 18 都道府県にわたった [表 2] 定住地域別の全体的傾向を見ると都市部の人数が多くなっている。これは、先のニーズ調査の回収率 (全 78 件) で、特に呼び寄せ家族が東京 (31 %)、神奈川 (14 %)、北海道札幌市 (13 %) と都市部の比率が高かったことに関係する。日本語学習のリソースが豊富と思われる都市部が数多く含まれていることから、帰国者が日本語教室情報を得ていない可能性もあるのではないかと想像された。[表 3] の滞日年数から見た対象者では、日本語学習に対するニーズが高いと思われるサバイバル期 0 - 2 年の者が少なくなっている。これは、ニーズ調査対象者を修了生については来日 2 年以上の者に絞ったということと (従って 0-2 年の枠にはいる対象者はいない)、呼び寄せ家族についてもニーズ調査時点から情報提供時までおよそ 1 年経っていることから、ニーズ調査時 0-2 年の枠に入っていた者も情報提供時には 2-4 年の枠に移行した者がいる。傾向としては滞日 4-6 年までの呼び寄せ家族が全体の半分以上を占めている。全体としても滞日 4 - 6 年までの者が全体の 8 割を占めた。また、滞日 10 年以上の者にも日本語に対するかなりな困難を感じるものがあるという事実は、長期的な支援の必要を感じさせる。

4. 情報提供の方法と手順

情報提供は郵送で行うこととし、その方法と手順は以下の流れに沿って実施した。

情報提供対象者の通学可能範囲にある日本語教室の情報収集

送付資料の作成

日本語教室情報送付

上記の手順で進めたが詳細は以下の通りである。

情報提供対象者の通学可能範囲にある日本語教室の情報収集

帰国者の経済的状況から考えて日本語学習に高額な費用はかけられないといった事情から、費用の余りかからないボランティア主催の教室や、自治体や公的機関で開設している教室の情報を集めることとした。対象者の居住地域は 18 都道府県にわたっているため、各地域のボランティアによるネットワーク組織などで編集されている日本語教室マップ¹⁾のある地域については、これを参考にした。そして、教室案内などの情報のない地域に関しては該当都道府県の関係諸機関 (自治体の国際交流担当部署、自治体の援護主管課、国際交流団体、社会福祉協議会などボランティア活動推進機関、日中友好団体、外国人支援団体、日本語教育ネットワーク等) に対して電話、ファックス等で日本語教室情報の提供を求めた。その結果、情報提供対象者のうち、提供できる情報が何も見あたらなかったケースは 80 世帯中 1 件のみであった。しかし、このケースについても、県福祉協議会から市福祉協議会へ相談が行き、地元の日中友好団体へ働きかけが行われ、そのメンバーが支援対象者 (国費帰国者 2 世の配偶者) への家庭訪問による日本語支援を実施することとなった。

送付資料の作成

送付資料として、今回の情報提供の意図と学習機会の積極的利用を促す「挨拶状」と、中文フォーム (資料 1) に記入された「教室案内」、そして、対象者選択のもととなった学習ニーズ調査から時間が経っていることから、現在の日本語学習ニーズの再確認と、提供した教室情報に対して条件の適否と、学習できる条件の希望を書いてもらうための「返信用ハガキ」(資料 2) を作成した。

日本語教室情報送付

の送付資料を、97 年 10 月末に郵送した。送付数は提供できる日本語教室情報が無く、調査の過程で地元のボランティア団体による支援が実現した 1 件を除

いた 100 件（79 世帯）であった。1 件について情報を提供した教室数は、最低 1 教室、最高 6 教室となった。

5. 結果

5 - 1 第 1 回情報提供の結果

第 1 回目の情報提供後の返信状況についてみる。まず、転居先不明として帰ってきたものが 4 件（4 世帯）返信用ハガキが返送されたのが修了生 12 件（9 世帯）呼び寄せ 22 件（17 世帯）の、計 34 件（25 世帯）であった。

[表 4] 返信地域別（ ）内は送付数

県	修了生	呼寄	計
北海道	3(4)	3(8)	6(12)
岩手		2(2)	2(2)
山形	0(2)	0(2)	0(4)
新潟	1(2)	2(2)	3(4)
富山	1(1)		1(1)
長野	0(3)	0(5)	0(8)
群馬	0(2)		0(2)
山梨	0(1)		0(1)
東京	1(9)	10(20)	11(29)
神奈川	0(6)	2(8)	2(14)
埼玉	1(2)		1(2)
千葉	3(4)	1(3)	4(7)
静岡	0(1)	0(2)	0(3)
愛知	0(1)		0(1)
大阪	0(1)	0(1)	0(2)
京都		1(3)	1(3)
高知		1(1)	1(1)
福岡	2(4)		2(4)
計	12(43)	23(57)	34(100)

[表 5] 滞日年数別（ ）内は送付数

%は滞日枠の中の返信率

滞日年数	修了生	呼寄	計
0-2	-	3(7)	3(7)
2-4	3(16)	10(28)	13(44) 30%
4-6	5(8)	8(21)	13(29) 45%
6-8	0(7)	0(0)	0(7)
8-10	1(7)	1(1)	2(8)
10~	3(5)	0	3(5)
不明		0(1)	0(1)
計	12(43)	22(57)	34(100)

返信数は全送付数の約 3 分の 1 で、呼び寄せ家族からの返信が修了生の約 2 倍で日本語学習に対しての関心の高さが窺える。居住都道府県別返信状況を見ると、当然送付総数の多かった都市部が多く、全国 10 都道府県からの返信があった。滞日年数別に見ると滞日 4 - 6 年までの帰国者が全体の 85 % とほとんどを占めている。滞日 8 年目以上の者からも 4 件の反応があった。次に返信ハガキの返信内容についてみる。

[表 6] 返信の内容（複数回答あり）

○紹介された教室に行く	6 件
○今日日本語に困っていない	2 件
○既に紹介された教室に行っている	2 件
○勉強したいが今は忙しくて時間がない	12 件
○紹介された教室の条件が合わない	14 件
内訳 ・時間帯が合わない	4 件
・時間が短い	1 件
・時間と学習内容、水準が合わない	2 件
・学習水準、方式が合わず、遠い	1 件
・教室が遠い	3 件
・時間が合わない、遠い	2 件

[表 6]のように、「(こちら側が提供した)教室の条件が合わない」というものが14件と最も多く、ついで多かったのは、「勉強したいが今は忙しくて時間がない」12件というものだった。「忙しさ」の理由としては、「子育て」「仕事」であった。これは、情報提供対象が青年層であることが大きく関連しているだろう。家庭を持ったばかりで、それを維持し、将来の生活のための土台を築くために仕事に打ち込んでいる時期でもあり、子育てに忙しく自分の時間を持てない時もある。人生の中でも家庭生活や経済的安定をはかることが優先のライフステージにいるのだろう。しかし、今後の長期的な人生を考えれば、職業上の転機や子供の学校での親の役割、コミュニティでの位置づけの変化等が考えられ、その変化によって日本語力を求められる場面が現れ、本人の学習ニーズも高まるとされる。その時、そのニーズに応えられる情報提供者や学習の場が必要になるだろう。また、この12件の中には先の滞日年数7年以上の4名も含まれていた。この内の3名はセンター修了生であり、学習適性もあまり高いほうではなく、退所後の日本語の伸びも思うようではなかったのかもしれない。未だに「勉強したいが…」という気持ちを持ちつつ生活しているということは、退所してから現在まで日本語に対する不全感を持ち続けていたのだろう。これは、帰国者にとって日本語習得がいかに人生に随伴する長期的な問題であるかということを表している。このような帰国者が、時間はかかっても自己実現をめざし続けられるための日本語学習情報の提供や、日本語学習支援の必要を感じる。

「教室の条件が合わない」というのが最も多かった理由としては、提供者側が学習者の最近の細かい学習ニーズを確認して情報を提供していないということや、教室情報収集にあたっての調査の幅が提供側の時間的・人的条件等から広げきれなかったということなどから、ある程度予測されたものである。条件が合わない点として多かったのは、「時間帯が合わない」(8件)というものの、ついで「教室が遠い」(6件)であった。これらは、忙しい青年層の生活状況を表していると思われる。これに対しては、更なる情報提供を行うこととした。そして、「紹介された教室に通う」と言う者は「不満はあるが行く」を含めて6件(6世帯)であった。この数が多いかどうかの判断は難しいが、少なくとも第1回目の情報提供で6人の学習希望者がその機会を得られたと言うことを考えれば、意義はあったと思われる。この6件中、5件は呼び寄せ家族であった。

5 - 2 情報の再提供とその結果

第1回目の情報提供で提供した教室情報が対象者の条件に合わなかった14件に対して、再度情報提供を行った。条件が合わない要因として多かったものは先にも述べたが「時間帯が合わない」で、中でも「日曜日開講の教室はないか」(4件、3世帯)というものが目立った。残業が多く、週休1日で日曜日しか空き時間が無いという状況で、雇用条件的にも厳しい職場で働く帰国者が多いことが窺える。しかし、一方で、日曜日開設のボランティア教室は少なく、ボランティア側の支援条件として日曜日を活動時間とする難しさや、場所の確保の難しさがあるのではないかと推測された。この希望に対しては新情報が提供できたのは1世帯のみだった。逆に就労していない帰国者にとっては、週1回の1,2時間の授業では飽きたらず、もっと頻繁に学習できる場の情報提供を求められたが、これも地域のボランティア教室では週2回以上の学習時間というところは少なく、複数の教室を紹介することでこの希望に答えるしかなかった。また、「もっと高いレベルの教室はないか」という希望も3件あった。これは、概ねボランティア教室の水準が初級から中級前期程度の学習者を対象とするところが多いという事情があるためと思われる。結果としては、対象者の条件に近い教室情報が得られたのは14件中10件であった。得られた教室情報を再提供した結果、紹介した教室へ通学する意志を伝えてきたのは2名であった。

5 - 3 返信のなかった情報提供対象者への電話調査

5 - 1でも述べたが、第1回目の情報提供に対して返信のあった者は、全送付数の約3分の1程度であったが、今後この「日本語教室情報の提供」を、定住帰国者に対するセンターの支援の形の一つとしていくためには、第1回目の情報提供で返信はがきを返送してこなかった対象者にも、今回の郵送による情報提供という方法が有効な手段であったかどうか確かめる必要があるだろう。そこで、返信の無かった対象者に電話による追跡調査を行うこととした。対象は未返送の61人(転居先不明除く)の中から、先の学習ニーズ調査の回答の中で日本語教室情報や教材情報が欲しいとあった者と、学習機会の情報を自ら取ることの難しいと思われる層として、中国での学歴が中学卒業以下の者合わせて43件とした。しかし、実際には対象者の多くが就業している事情から、連絡がつきにくく、結果

として回答の得られた者は 18 件で、回答内容は以下のものであった。

今回送った日本語教室の情報を見ましたか？

知らない 9 件

見た 9 件

現在の日本語学習のニーズ

今も学習したい 6 件

勉強したいが忙しくてできない 7 件

紹介された教室に行く（行っている） 2 件

家で自学している 1 件

その他 2 件

のように郵送された教室情報を全く見ていないというものが半数もいた。この結果から、郵送による情報提供の方法は本人の目にとまらない可能性がかなりあることがわかった。今回の情報提供は、本人の要望に応じて提供された情報ではなかったことも影響しているのかもしれないが、不特定多数を対象とする情報提供の際、本人の目にとまるための提供の仕方の工夫が必要と思われる。「知らない」と答えた者の中で日本語教室情報を希望する者 8 名には教室情報を再送した。再送後、1 名が紹介した教室に通学することになった。また、「見た」と答えた者の中で「条件が合わない」（レベルが合わない、遠い、教師が中国語ができない、回数が少ない、日曜日がいい等）と答えた 4 件に対して、センター側で新たに提供できる教室情報はなかった。しかし、このうちの 1 件には自学自習用のテキスト、図書館、書店の紹介を行い、もう 1 件についてはその地域の市役所と連絡を取り、教室の日曜日開設を検討してもらっている。

6. 今後の課題

日本語教室情報の収集（情報のデータベース化）

日本語教室の情報提供サービスの根本となる情報の蓄積、そして、そのデータベース化が今後の課題である。特にボランティアによる教室は、参加するボランティア個人、グループなどの都合で開講時間帯、場所等変更が多く見られる。このような点から、メンテナンス作業も必要となる。従って、生きた情報の提供するための体制づくりとその方法を検討して行かねばならない。また、今回、情報

提供の過程で日本語教室がない、或いは帰国者の希望する条件の教室がない地域において、その地域の自治体関係者、NPO 団体等との交渉、協力により日本語学習の機会が得られたケースがあった。今後もこの情報提供サービスの実施過程で、帰国者の学習ニーズを各自治体や関係機関、団体に伝えることにより、支援者の発掘を行い教室情報を作り出す作業も行えればと思う。

「情報ニーズ」の捉え方

今回情報提供を行った対象は、96 年にセンターが行った学習ニーズ調査の中から対象を選び出したわけであるが、今後の情報提供の対象者をどのように選んでいくか、各地の帰国者の日本語教室の情報を得たいという「情報ニーズ」の捉え方が、今後の課題となってくるだろう。まず、センターが全国の日本語教室情報の提供サービスを行うということを各地の帰国者に知ってもらう必要があるだろう。そのためにもその方法やルートを検討する必要がある。また、このような全体へのインフォメーション以外にも帰国者の「情報ニーズ」の掘り起こし作業も必要ではないかと思われる。なぜなら、今回の情報提供対象者の返信内容にも「勉強したいが、今は忙しくてできない」というように「今はできないがいずれは…」というような予備軍がかなり見られたからだ。このような青年層の帰国者は、今後ライフステージの転換期の節目節目で日本語学習の必要が高まったり、生活にゆとりが生まれ学習環境が整ったりすることによって、学習ニーズが高まることが考えられる。そのような時にタイミングよく学習の場の情報が手に入るかどうか、その帰国者の自己実現の可能性にもつながると思われる。「学習ニーズ」が生じてから「学習機会の獲得」までが難しく遠いものであると、生活者である帰国者の学習ニーズは深く潜在化してしまう可能性もあるからだ。また、帰国者の場合、情報収集に対する不慣れさや情報収集の手段自体を知らない場合も多いと思われ、自力での情報収集がスムーズに行われない場合もある。従って、帰国者の「日本語を学習したいが、どこでどうやってできるのだろう」という日本語学習に対する「情報ニーズ」を、帰国者のライフサイクルの節目を予測し提供者側から捉えていく視点も持つ必要があるだろう。

情報提供の方法

今回の情報提供の方法は、郵送による中国語での情報提供であった。中国語での情報提供自体は、識字力のある者にとってはわかりにくいということはなかつ

たようだ。ただ、電話追跡調査でわかったように、「見てない」「知らない」という声も多く聞かれた。今後求めに応じて送付する以外は、封書の表書きにも内容がすぐわかるように、帰国者の目を引く工夫が必要と思われる。また、識字力の低い帰国者への情報提供も今後の検討課題である。この場合は電話での提供の他、本人の居住地域で直接、情報提供できる仲介者を紹介するということも考えられるだろう。

日本語教室利用のための学習相談機能の必要

各地域の日本語教室を「学校」ととらえがちな帰国者にとっては、その教室の条件（時間帯、既にある教室の学習レベル）が自分に少しでも合わない、参加を諦めてしまうということが起こりがちである。例えば、「始業時間に間に合わないから行きたいけど行けない」、「見学したグループのレベルが合わないから行かない」、「毎週は行けないかもしれないから行かない」等、相談可能な事柄でも、遠慮や規則を守ることを前提とした「学校」に対するイメージから、学習の機会を逸してしまうこともありうる。このような事態を避け、提供された情報を有効に利用してもらうためにも、情報提供側から対象者へのフォローアップが必要と思われる。対象者が教室へアクセスした直後や、アクセスから通学定着に至るまでの時期には対象者との学習リソース利用のための相談や、日本語教室のスタッフとの連絡、連携が必要になるだろう。今後は、教室利用相談のノウハウを蓄積するためにも、今回の情報提供で教室通学し始めた者への追跡調査を行う予定である。

地域の支援者が情報提供者となるためのノウハウ作り

以上で述べたように、支援者が帰国者の「日本語学習したいけどどこでできるの」といった「情報ニーズ」を捉えたり、識字力の低い者に対しての電話や対面による情報提供を行ったり、教室へのアクセス、利用を勧めていくための学習相談を行ったり等の課題を解決していくためには、遠距離からのサポートでは限界があるだろう。本来、情報提供者は、帰国者の居住地域の状況に詳しい者であることが望ましい。例えば、その地域の地理や気候（冬の積雪によって行動できる範囲の制限があるところもある）、交通機関や日本語学習に関するリソースの有無、学習者の生活環境、学習環境を把握している（或いは把握可能な）者が当たるのが望ましいだろう。つまり、情報提供サービスも遠距離からセンターが直接

当たるといよりは、地域の支援者主体のものとしていくのが理想ではないだろうか。そして、各地域で情報提供をしようとする支援者を側面からバックアップすることをセンターの仕事とできればと思う。そのような支援の形を現実のものとしていくためにもセンターとしては、これから支援活動を始めたいというような地域の支援者が利用できる「情報提供・リソース利用のノウハウ」（帰国者の情報・学習ニーズの把握、情報の収集・提供、学習リソースをスムーズに利用できるための学習相談等の仲介ノウハウ）を開発していく必要があるだろう。

注）

1) 以下の資料から情報提供を行った。

- 「ボランティア日本語教室ガイド 1997」東京日本語ボランティアネットワーク
- 「日本語ボランティア教室マップ'96」横浜市海外交流協会
- 「神奈川日本語教室マップ」ソナの会（神奈川県）
- 「埼玉の日本語教室多言語案内'97」埼玉日本語ネットワーク
- 「あなたの町の日本語教室」房総日本語ボランティアネットワーク
- 「関西の日本語教室ダイレクトリー 1997」関西国際交流団体協議会
- 「日本語ボランティア教室マップ」北海道日本語教育ネットワーク
- 「山形県内の日本語教室・日本語教育機関などの設置状況」山形県国際交流協会
- ヤマガタ ヤポニカ調べ
- 「山形県における日本語教育実施団体一覧表」（財）山形県国際交流協会まとめ
- 「信州日本語教室所在地・信州日本語教室マップ」信州日本語教室フォーラム実行委員会
- 「在住外国人のための日本語教室リスト」静岡県国際交流協会
- 「東海地区の日本語教室」
- 「日本語教室」小さな国際交流の会（福岡）
- 今回の情報提供時点では未刊行、未収集で利用できなかったが、今後利用可能な資料
- 「新潟県日本語教室ダイレクトリー」上田女子短期大学
- 「福岡ボランティア日本語教室マップ」福岡日本語ボランティア・ネットワーク
- 「日本語講座リスト」広島市国際交流協会

参考文献

- ・安場淳他（1997）センター紀要第 5 号「『定住している定住帰国者の日本語学習ニーズ 等』についての調査報告 - その 1 - 」
 - ・安場淳他（1998）センター紀要第 6 号「『定住している定住帰国者の日本語学習ニーズ 等』についての調査報告 - その 2 - 」
- 資料

[資料 1] 中文フォーム

晚豐縮片佛儂

縮片兆		減天繁兆	
選大仇泣	〒 tel () -		
縮片議仇泣		恁除概孌	
貧仁 扮寂 菱肝	佛豚 : ~ : () 佛豚 : ~ : () 佛豚 : ~ : ()	秘僂扮豚 僂楼侘堀	昧扮・() 垓 匯軟・弑快僂楼 ・匯斤匯
僂繼	室繼・辺繼 ()	聞喘縮可	
僂楼ㄆ	𪛗忽繁・拷忽ㄆ・𪛗磨		
選大圭隈	KK選大仇泣航窮三 ・ 亟佚 ・ 岷俊肇縮片		
姥 深			

[資料 2]

○ 返信用ハガキ（中文版）

尙兆：
廖峽：〒
窮三：
和峰戾諒，萩豐嶺艇議秤趨癡裁議祿朕貧歛管隅。
・公厘初府議縮片，厘肇阻。縮片兆 ()
・ 壓，晚豐短喘湖欺確佃，促參音肇貧僂。
・ㄆ僂楼，微頁咀確短喘扮寂，促參音孌肇貧僂。
・音岑祗縮片議仇泣，促參音孌肇。
・公厘初府議購器晚豐縮片議佛儂，厘心音峽。
・公晚豐縮片航阻窮三，微頁，航音宥。
・風万 ()
才縮片選大拍 (賜肇拍)議繁，萩壓和峰嶺艇議秤趨癡裁議祿朕貧歛管隅。
・斤縮片嶺吭。書昀匆ㄆ肇僂楼僂楼心。
・縮片珊麻辛參。書昀匆ㄆ肇僂楼僂楼心。
・縮片斤徑失音寄癡裁。音肇僂楼。
範確初府議縮片音裁癡議繁，尖喇頁和峰議陳匯稱
槽？珊喘，萩委錄李議坪否亟匯和。
・扮寂揮音裁癡 (錄李：
・僂楼坪否音裁癡 (錄李：
・僂楼邦峠音裁癡 (錄李：
・僂楼主堀音裁癡 (錄李：
・才析弗裁音植 (錄李：
・縮片仇峽湊垓 (錄李：
・風万 ()
宸倅芋佚頭萩壓 98 定 垓 晚參念篠指確垓。

○ 返信用ハガキ（日文化）

氏名：
住所：〒
電話：
以下の質問の当てはまるものに。をつけて下さい。
・紹介された教室に、行ってみた教室名 ()
・今は日本語に困っていないので教室へは行かない
・勉強したいが、時間がないので教室へは通えない。
・教室の場所が分からないので行けない
・紹介された教室の情報が読みとれない
・教室の連絡先に電話したが、通じない
・その他 ()
教室に連絡をした方（もしくは行った方）以下の
中から当てはまるものに。をつけてください。
・教室は気に入った。今後も通ってみたい。
・教室はまあまあだ。今後も通ってみようと思う
・教室はあまり自分に合っていない。通わない。
紹介した教室が合わないと思った方、その理由は以
下のどれですか。また、希望の内容を書いて下さい
・時間帯が合わない (希望：
・学習内容が合わない (希望：
・学習レベルが合わない (希望：
・学習形態が合わない (希望：
・先生と合わない (希望：
・場所が遠い (希望
・その他 ()
このハガキは 98 年 月 日までに返送願います。
中国帰国者定着促進センター